

◇「都市をつくった巨匠たちーシティプランナーの横顔」(2004年、監修：新谷洋二/越澤明、編集：財団法人都市みらい推進機構、ぎょうせい)

出版されたのは16年くらい前で、おそらくあまり書店で見かけなくなっているのではないかと思われるが、私の好きな本の一つである。この分野を志す人、この分野を学ぶ学生さんなどにお薦めしたい本でもある。

監修者であり、執筆者の一人の越澤明さんからの謹呈で手に取ることになった。

建築設計、都市設計、都市デザインという言葉がある。世に建築家の本はあまたあるが、華やかさや身近に感じにくいせいか、ある都市の設計に尽力した都市設計者、都市プランナー、シティプランナーの本は、あまりない。都市のその後に大きな影響を及ぼした都市設計者、都市プランナーについて、その経緯、思想、人物そのものについてもっと紹介されてもいい。都市とは、自然に出来上がるものではない。都市とは、その時代、関係機関、携わった都市プランナー達の自画像ともいえるからである。

本書もそのような視点から、都市の設計に多大なる影響を及ぼした人物を中心に編纂されている。通読すれば、都市設計の歴史をたどることができるし、関心のある人物、都市について当該項目だけを拾い読むこともできる。あるようであまりない本である。一読を薦めたい。(2021年4月27日記)